



第 9 号  
2009 (平成 21) 年 06 月 20 日  
映画英語教育学会 九州支部事務局 発行

〒803-0835 福岡県北九州市小倉北区井堀 1-3-5  
西南女学院大学 人文学部 八尋春海 研究室  
TEL/FAX: 093-583-5720  
E-mail: kyushu\_office@atem.org  
URL: <http://www.atem.org/kyushu/index.html>  
編集: 與古光 宏・浦田 毅彦・中村 茂徳

### Contents

Page 1	巻頭言	Page 2	第 10 回支部大会ルポ	Page 3	映画『ヨツバ』 / 会計報告
Page 4	第 13 回 STEM 大会誌	Page 5	映画のトビア / 第 11 回支部大会案内	Page 6	出版案内
Page 7	編集後記				

## STEM との国際交流の未来

映画英語教育学会 九州支部

HP 編集長 鶴田 知嘉香 (福岡雙葉中学校・高等学校)

ATEM 九州支部会員の皆様、新年度も軌道に乗ったところだと思っておりますが、お変わりありませんか。若輩者ですが、今回巻頭言を書いて欲しいという運営委員会からの要望 (or maybe a sort of an order) で、僭越ながら一筆書いております。

私は九州支部の運営委員で、HP 編集長をしております鶴田知嘉香 (つるた・ちかこ) です。毎年 4 月の第 3 土曜日に開催される STEM (映像映画教育学会) 参加や、支部大会のご案内を支部の HP を通して、皆様へ色々な情報をお伝えしております。

また、私は支部だけでなく、当学会の本部事務局内でも、学会のお手伝いをさせて頂いております。理事ではありませんが、秋好礼子国際交流委員長のもとで、特別に国際交流委員もしております。昨年は、校務の関係でどうしても STEM 大会には参加することが出来ませんでした。これまで入会以来毎年 STEM 大会に参加し、Lee 会長にも「ツルタチカコ センセイ」とすぐには呼んでもらえるようになりました。STEM 参加回数は、高瀬副会長 (兼九州副支部長) には及びませんが、2003 年から今まで 5 回参加しており、多分全 ATEM 会員の中での 2 番目か 3 番目に多いと思います。

ATEM の姉妹学会である、韓国の STEM はとても友好的で、何から何まで優しくお世話してくれます。STEM 大会への参加に必要なのは、渡航費と宿泊費。宿泊費は大体 1 泊 5,000 円程度で、大会開催大学内にあるゲストハウス (といってもほとんどホテルのように豪華) やホテル、以前は四ツ星ホテル (が 5,000 円になるように援助) だったりします。インチョン国際空港から STEM の

チャーターのバスが迎えに来てくれ、名所旧跡の観光ツアーに連れて行ってくれます。朝、昼、晩、全ての食事が STEM によるおもてなしなのです。九州からは常時 7 から 9 名 (沖縄を含む)、関西からも 4 から 5 名の会員が参加しています。その他の地域からは、残念ながら 1 から 2 名程度の参加しかありません。大会期間中、スタッフの方が楽しげに話しかけてくれて、非常に楽しい学会参加となっております。まだ STEM 大会に参加されていない会員の方は、是非ご参加ください。

九州支部が 2000 年 02 月 14 日に設立され、今年で 11 回目の九州支部大会を、西南女学院大学で実施します。そして来年 2010 年は、福岡で I.C.E.F.2010 (International Cinema & English Festival 2010) という国際映画英語フェスティバルを、福岡大学にて 10 月 9 日から 10 日にかけて開催予定です。当日は STEM から多数参加することになっています。

今後は、当学会の九州支部を中心に STEM との交流を更に深め、STEM の会員との共同研究、そして全国大会だけでなく九州支部大会にも STEM 会員が多く参加出来るような体制が取ればいいなと考えています。九州支部の運営委員として、また本部事務局の国際交流委員として、ATEM と STEM が共に研究や交流の面で今以上に発展するように頑張りたいと思います。また、運営委員会の委員でない会員の皆様で、九州支部の運営に関わってみたいと思う方は、支部事務局にご連絡ください。支部の発展のために共に働いてみませんか。

## 第10回支部大会ルポ

前年度の第9回支部大会は、秋好副支部長の勤務校にて実施しましたが、第10回は2008年9月6日(土)、同じく副支部長の高瀬の勤務校(福岡医療短期大学)にて開催しました。

今回は、支部大会10回目という記念すべき大会につき、特別にプロのジャズ・ボーカリストのうしじまあおい氏による『ジャズと映画音楽』を行いました。

彼女は福岡市のご出身で、ご主人は、当学会によく参加されている山口実氏です。山口氏は、元三井物産の海外支店長。湾岸戦争時に人質になり、ミサイルや爆弾の飛び交う中無事に帰国されたという、貴重な体験をお持ちです。ご結婚のきっかけは、「彼女の追っかけ」からだったとか。

このコンサートには、学会の会員だけでなく、福岡歯科大学近郊の「老人クラブ」の方々も、大勢参加して下さいました。KBC朝日放送や西日本新聞社等の取材の中、『カサブランカ』『シャレード』など皆様にとって馴染み深い曲が歌われ、大盛況でした。

研究発表の方は、昨年に引き続き、シンポジウムが行われました。今回は與古光先生、篠原先生と高瀬の3人で『Japanese Heroes V.S. Anti-Heroes in American Movies』というテーマで、日本人が主人公として登場するアメリカ映画やTVドラマについて発表しました。

また、九州の会員だけでなく、関西支部からも多くの発表が行われました。関西支部の藤枝支部長(学会副会長)や倉田副支部長、そして関西学院大学の三村先生、京都橘大学の山口先生が、研究発表という形で参加され、両支部の結び付きが堅いことを印象づけました。関西支部の先生方、いつもご協力ありがとうございます。

今回は、八尋事務局長の勤務校である西南女学院大学での開催です。

## 支部大会内容

### 1. ジャズと映画音楽(うしじまあおい氏)

### 2. 映画オタクコンテスト

八尋 春海(西南女学院大学)

### 3. シンポジウム

「Japanese Heroes V.S. Anti-Heroes in American Movies」

高瀬 文広(福岡医療短期大学)

「アメリカ映画史上に登場する日本人像を通して見たステレオタイプと偏見」

與古光 宏(九州産業大学)

「アメリカ映画史上初の超人気日本人の俳優・早川雪洲を筆頭に、反ヒーローである日本人俳優とキャラクターについて」

篠原 一英(福岡県立久留米筑水高等学校)

「戦後初めての日本人ヒーロー：映画

『ヒーローズ』の主人公の一人ヒロ・ナカムラと日本人像」

### 4. 研究発表

#### (1) 三村 仁彦(関西学院大学)

「no + 比較級 + than の semantic prosody」

#### (2) Christopher Chase(西南学院大学)

「The Creative Use of Movies in Language Teaching」

#### (3) 倉田 誠(京都外国語大学)

山口 麻美(京都橘大学)

「『ガラスの天井』にまつわる言語表現の一考察」

#### (4) 奈良 圭(東福岡高等学校)

「ラップによる英語音読の紹介と実践」

#### (5) 藤枝 善之(京都外国語大学)

「『タイタニック』の使いどころ - 文法指導と異文化教育の観点から - 」

#### (6) 八尋 春海(西南女学院大学)

「アメリカ映画における父親と息子」

### 5. 懇親会

日本料理 しげまつ(福岡歯科大学の南正門前)

(文責：高瀬 文広)



大会終了後の懇親会の様子  
(日本料理 しげまつにて)

映画ショッキング Vol. 09  
～ 第2次世界大戦のパロディ～

1986年04月から1年間、マラマッド研究のため渡米した。研修先の大学院でアメリカ文学の講義を受け、1ターム6冊の文学書を読まされる羽目になった。無論6冊全てを読破することは出来なかったが、カート・ヴォネガットやジョセフ・ヘラーは精読した。殊にユダヤ系アメリカ作家、ヘラーの『キャッチ 22』(1961)は夢中で読んだ一冊である。この作品は1970年に映画化された。

ヘラーがこの作品を完成させた1961年、アメリカはベトナム内戦に介入し、戦争を本格化させた。戦いが長期に及ぶにつれて泥沼化した。アメリカ軍が動員した兵力は最高56万人と言われており、アメリカ史上最も憂うべき戦争であった。第2次世界大戦を体験したヘラーは、ブラック・ユーモアの手法で、戦争の残酷さと高度に発達したアメリカ資本主義社会を痛烈に批判した。

映画では、第2次世界大戦でアメリカ本土へ帰国したい兵士たちが、上官の命令で与えられた爆撃回数をこなしていくが、そこにひとつの罠「キャッチ 22」があった。それは「オアは気が狂っており、したがって彼の飛行勤務を免除することができる。彼は免除願いを出さずればよかったのだ。ところが、願い出たとたんに、彼はもはや狂人ではなくなるから、また出撃に参加しなければならない」という二律背反であった。

因みに『ジーニアス英和辞典』(大修館)ではCatch-22の意味が載っている。[J. Hellerの同名小説から]どっちに転んでも勝算のない不合理な状況、板ばさみとある。ヘラーのCatch-22が慣用語として使用されるほど、1960年代から70年代にかけて、いかに多くの人に読まれたかが分かる。この作品の系譜に入るカート・ヴォネガットの『スローターハウス5』(1972)もお勧めの映画である。

今回は秋好礼子先生にお願いします。

(市川野康)

2007年会計報告

2007年 ATEM九州支部会計報告  
(2007/01/01～2007/12/31)

項目	収入
前年度繰越金	423,931
懇親会費	57,000
支部活動費	50,000
印税(「映画が語る現代社会」)	5,785
<b>収入合計</b>	<b>536,716</b>

項目	支出
会議費	9,114
アルバイト代	21,000
郵送費	19,420
懇親会費	54,960
文具代	88
<b>支出合計</b>	<b>104,582</b>

**収入合計 - 支出合計 = 432,134円** 次年度繰越へ

映画英語教育学会本務事務局での予算年度は、1月1日～12月31日になっておりますので、本支部の会計年度もこれに倣っています。上記の2007年の収支決算書は、昨年の支部運営委員会、並びに支部総会にかけられ、承認されたものです。  
(報告:事務局長 八尋 春海)

## 第13回STEM大会ルポ

これまで、このニューズレターの編集に携わりながら、各先生方にこのSTEM大会ルポをご執筆頂く度に、その充実した内容がよく伝わって来て、まるで私も参加していたような気持ちになっていました。今回、第13回目にしてようやくSTEM大会に出席することが出来、そのルポを私自身で執筆するという、長年の念願を叶えることが出来ました。

毎年恒例の4月第3土曜日に開催されている、『映像英語教育学会 (STEM) 』。今回は、4月18日に檀国 (ダングク) 大学にて開催されました。

九州支部からは、私の他にはATEM副会長の高瀬先生、篠原先生、大木先生、ならびに兼本先生を始めとする琉球大学の先生方・大学院生がご出席。他にも、現会長の磐崎先生と前会長の曾根田先生、ATEM副会長兼関西支部長の藤枝先生、同じく関西支部の倉田先生、井村先生...というメンバーで、韓国へお邪魔しました。

さて、もはや語り草となりました、STEMの皆さんによる心尽くしに関しては、今号の『巻頭言』で鶴田先生が詳しくご紹介して下さっていますので、私は研究発表を中心にお話ししましょう。

今回、私は高瀬先生、篠原先生と一緒に、大会の基調発表の一つを行いました。私たちはシンポジウム形式で、今号で高瀬先生がご執筆下さいました、昨年9月の九州支部大会にて一足早くご披露した内容を、さらにパワーアップさせて、発表言語も英語に切り替えたものでした。

シンポジウムのテーマは、『Japanese Heroes vs. Japanese Villains in American Movies & TV Dramas』。まずは、高瀬先生が概要をご発表 続いて私が日本人悪役スターの紹介 最後に、篠原先生が戦後初の日本人スター=『ヒーローズ』におけるヒロ・ナカムラをご紹介して締めくくりました。

私の発表中のことですが、『ラスト サムライ』(2003)のワンシーンを再生しようとする、音声がかたがた聞こえずに「無声映画」状態になってしまうという、ちょっとしたハプニングが。音声コードを違う端子に繋いでしまっていた、単純ミスでしたが、「今回の『ラスト サムライ』は、皆さんには特別に無声版でお送りしております」とアドリブで切り抜けました。もっとも、それもあって、私の次に控えておられた篠原先生のお時間に、5分ほど食い込んでしまいました。

篠原先生、この場を借りて改めてお詫び申し上げます。

余談ですが、大会後のレセプション前に、前夜知り合った韓国人の先生と再会した際に、「他の

研究とは違い、映画作品や俳優に焦点を絞っていたのは何故?」という質問を受けました。「日本では、英語を通しての異文化理解というの、教育の一環として行われています。確かに、言語学的な内容ではありませんでしたが、海外メディアに映る自分たちの姿をみるための、一つのアプローチをご紹介してみたという訳です」とお答えしておきましたが、皆さんでしたら、どのような答えをなさるでしょうか?

私たちの基調発表を終えて、午後の部は大木先生や井村先生の研究発表を拝見しました。どれも大入り満員で、Q&Aも活発で大盛況でした。

個人的に興味深かったのは、(1)日本人・韓国人と、(2)英語母語話者の、パワーポイントのスライドにおける、文字による情報量の違い。多かったのは、何と意外にも(1)の我々の方だったのです。

プレゼンテーションの巧拙という話ではなく、(1)が「脚本(スライド)に忠実に」発表するのに対して、(2)は「アドリブ重視」。つまり、スライドは箇条書きで言葉少な(日本人のステレオタイプのような)。文字よりも音声であれこれ詳しく説明するという感じです。こういう点も、大いに参考になった研究発表でありました。

ところで、今回の訪韓中、STEMのLee会長が我々をご覧になり、「おや、今年は『花(=女性の皆さん)はどこへ行った』のですか?!」という鋭い(!)ご指摘を。そうなのです、今回はほぼ全員が男性のATEMサムライチームだったのです。という訳で、女性の会員の皆さん、来年はぜひ万難を排してのご参加を!!

(文責：與古光 宏)



今回、STEM大会に出席したATEM会員の集合写真。

(左端：STEM・Lee Jawon 会長)

(高瀬先生より頂いた写真を拝借しました)

## 映画のトリビア Vol.09

～いやな予感！？～

全米が、映画館の椅子に座りながら宇宙でワーブした映画。英語を喋る、なぜか日本的なナイト達が、か弱くないお姫様をどうやって助けるか、にわくわくした映画。その映画が初めて上映された時、私はカリフォルニアでホームステイをしていた。短期間の滞在だったため、その場で見る事ができず、見た人の話を十分すぎるほど聞いて帰国。すぐに映画館に駆け込んだ。数十年後、DVD となって我が家でいつでも何回でも見ることが出来る日が来るなんて夢にも思わず、バイト代が続く限り映画館に足を運んだ。

私が映画の中の「英語」に集中するようになるきっかけとなった映画 -- Yes! It is Star Wars!

今でもオープニングの ジャーンという1音を聞いた瞬間に魔法にかかってしまう。「なぜか日本的」だったのは、黒澤明の『隠し砦の三悪人』がベースになっているからだと後年知った。

そうやって長年付き合ってきたスター・ウォーズだが、DVD になったシリーズを改めて続けて見ていて、思い出したことがある。シリーズのあちこちで登場人物達が言う、お決まりの一言。これをご存知だろうか？もちろん “May the force be with you.” 以外で。実は観客が感じるのと同時にスクリーンの中の彼らも「いやな予感がする...」のだ。

“I got a bad feeling about this...” このセリフがエキサイティングシーンの始まりの合図。

ハリソン・フォード扮するハン・ソロがポツリと言うシーンをDVD で是非探してほしい。だが世界中に

いるスター・ウォーズファンの中には、きっとお気づきの方も多だろう。しかし、しかしこれには続きがあることにもお気づきだろうか。

シリーズが完結し、このセリフのことも忘れていた私だが、つい最近思いもよらない人から聞いた。

“I've got a bad feeling about this...” 言ったのはハリソン・フォードその人。当然ハン・ソロではない。

今度は、この地球で冒険をし続けてきたヒーロー、インディ・ジョーンズが思い出させてくれたのだ。最新作「クリスタル・スカルの王国」のDVD で、この場面もまた是非探してほしい。これは決して、単なる偶然ではなく、これらの映画の生みの親のルーカスとスピルバーグの遊び心のおかげだと思っている。願わくば、映画界の2人の魔法使いが、また素敵なヒーローに新たな「いやな予感」を感じさせてくれる日が1日も早く来ますように！

(小林明子)

## 第11回九州支部大会案内

第11回 ATEM 九州支部大会を、下記のように開催致します。本年度の支部大会は、北九州市の西南女学院大学で下記の要領で行われます。今回は、学生や一般の方に興味を持って頂けるイベントや企画を準備中です。是非、皆さんお誘い合わせの上ご参加下さい。また、発表については、次のように2つの部門を設けます。どうぞ奮ってご応募下さい。

### 募集発表

- (1) 研究発表
- (2) ワークショップ：映画で英語レッスン  
(スクリーンプレイ活用など、一般参加者向けの内容)

日時： **2009年9月5日(土) 13時より**

会場： **西南女学院大学**

**北九州市小倉北区井堀1-3-5**

(JR戸畑駅より25番、27番、28番のバスで

「西南女学院」下車)

懇親会：『双幸』(会費¥4,000程度)

### 発表応募要領

申し込み締め切り： **2008年7月10日(金)**

申し込み先：(事務局長 八尋 春海 宛)

・E-mail：kyushu\_office@atem.org

・郵送、FAX：

〒803-0835 北九州市小倉北区井堀 1-3-5

西南女学院大学 人文学部 八尋 春海

電話 & Fax：093-583-5720

### 記載事項：

「研究発表」「ワークショップ」の別を必ず明記のこと。ただし、ご希望に添えない場合がありますので予めご了承下さい。

1. 発表者名(ふりがな)・所属先名・職名
2. 連絡先(E-mail アドレス含む)
3. 発表タイトル
4. 発表概要(日本語発表：日本語で400字、英語発表：英語で200words程度)
5. 使用機器(開催校で準備できない場合もございます。パワーポイントを希望の方はパソコンをご持参ください)

\* 発表時間は質疑を含めて30分間です。

(文責：中島千春)

九州支部会員 出版案内  
名作映画完全セリフ集 スクリーンプレイ・シリーズについて

スクリーンプレイ出版(株)が、世界自動車産業専門調査会社である(株)フォーインの中に吸収されて、フォーイン・スクリーンプレイ事業部となりました。元々フォーインから出発した事業部であるので元の鞘に収まったような感じです。

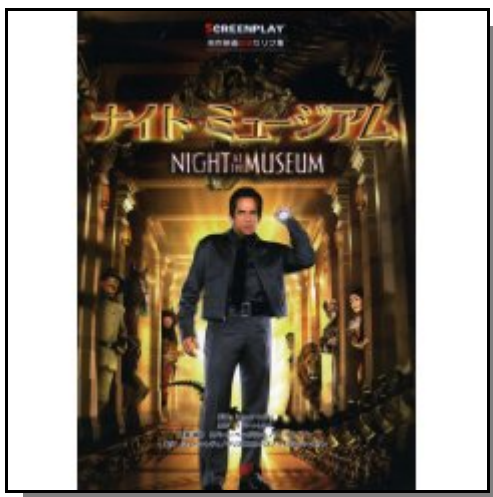
2006年8月から2008年3月までは当シリーズは出版されませんでした。2008年から以前のように出版されるようになりました。

全国で約4カ所ある当事業部の翻訳チーム(関東2、東海1、そして九州1)で順番に翻訳行っていますが、2008年には九州から2冊出版しています。著者は全員ATEM九州支部会員です。今後はレギュラー選手に毎回新人を1名入れて、多くの会員がこの出版に関われるようにと考えています。

『ナイトミュージアム』名作映画完全セリフ集  
スクリーンプレイ・シリーズ 129

(2008年8月発行)

(高瀬文広 監修 / 秋好礼子、高瀬文広、鶴田知嘉香、中島千春、八尋春海、八尋真由実 / フォーイン・スクリーンプレイ事業部出版 / 1,200円)



“Night at the Museum”が原題の、2006年のアメリカ映画。ベン・スティラー主演の全米大ヒット・ファンタジー・コメディ。やっと見つけた仕事は、ニューヨークの国立自然史博物館の夜警。この博物館は、夜には展示物が次々と動き出して大騒動をするという場所。歴史上の様々な展示や人物、そして動物が登場して非常に面白いですよ。

この映画の英語は比較的簡単で、大人だけでなく子どもも楽しめるようになっています。

『JUNO/ジュノ』名作映画完全セリフ集 スクリーンプレイ・シリーズ 130

(2008年11月発行)

(高瀬文広 監修 / 秋好礼子、篠原一英、高瀬文広、鶴田知嘉香、中島千春、八尋春海、八尋真由実出版 / フォーイン・スクリーンプレイ事業部出版 / 1,200円)



この映画は、当初はたった7館のみの公開だったのです。ところが、口コミや賞レースで話題を呼び、2008年1月には2400館を越え、興行収入も1億ドルを突破した映画なのです。最終的には、配給会社であるフォックス・サーチライト・ピクチャーズの歴代1位の興行収入となった、一風変わった経歴を持つ映画です。

内容は、16歳の女子高校生が、バンド仲間のポーリーと興味本位でセックスをして妊娠してしまい、産まれてくる赤ちゃんをどうするかという映画です。語彙や文法は比較的簡単です。主人公が高校生なので、少し早口ですが、聞き取りやすでしょう。

(文責：高瀬 文広)

支部会員の皆様で、掲載ご希望の近著がございましたら、編集委員(yokomitz@ybb.ne.jp)、または事務局(kyushu@atem.org)にお知らせ下さい。

## 編集後記

九州支部会員の皆様、いかがお過ごしでしょうか。まずは、皆様にお詫び申し上げねばならないことがございます。

今回のニューズレター、当初は、今月初めにも皆様のお手元にお届けする予定でした。ところが、私が執筆しました STEM 大会への参加を終えて帰国した辺りから、何故か心身のバランスが少し崩れた感じになり、日々の講義にも忙殺されていた数週間の間は、編集作業も滞りがちになってしまっていました。過去は、このようなことはまずなかっただけに、私自身大変歯痒く感じておりました。

幸い、中島支部長、八尋事務局長のご高配を頂き、本日まで発行を辛抱強く待つ頂きましたが、それにしても、編集長の私自身の不手際による遅れ、大変情けなく思っております。

各記事を執筆して頂きました諸先生方には、原稿を受領した後、随分経ってから校正をお願いする羽目になったにも関わらず、迅速なご連絡を頂戴しまして、大変感謝しております。

最後に、今回の編集作業は、上述のような事情で、主に私が急いで片付ける形になりまして、編集委員の浦田先生、中村先生にもご心配をおかけすることとなってしまいました。

今後は、これまで以上にまず私自身がしっかりして、これまで以上に迅速かつ密接な編集作業に努める所存ですので、どうぞ皆様のご指導ご鞭撻のほど、よろしく願いいたします。

さて、次号のニューズレターでは、今回叶いませんでした『新会員紹介』を復活させるつもりです。この1年以内に入会された新会員の皆様に、簡単な自己紹介のご執筆をお願いするかと思っておりますので、その際は何とぞご協力のほどお願いいたします。

(與古光 宏)